

## 様式C－19

### 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月22日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530803

研究課題名（和文） 後発帝国大学の設立理念と実態—九州帝国大学法文学部の場合—

研究課題名（英文） Principles and Realities behind the Establishment of Latecomer Imperial Universities: The Case of Kyushu Imperial University Faculty of Law & Letters

研究代表者

折田 悅郎 (ORITA ETSURO)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：10177305

研究成果の概要（和文）：

戦前期の帝国大学（以下、帝大）のうち、法文学部が設置されたのは九州帝大と東北帝大だけであった。東京、京都の両帝大には、法学部、文学部、経済学の3学部が置かれ、一方、九州・東北帝大以降の北海道、大阪、名古屋の各帝大には、法文系学部は設置されなかった。このことは法文学部の存在そのものが、帝大史研究の中では一つの意味を持つことを示唆している。本研究は、このような法文学部について、九州帝大の事例を中心に考察したものである。

研究成果の概要（英文）：

Among Japan's prewar imperial universities, only Kyushu Imperial University and Tohoku Imperial University established a Faculty of Law and Letters. While both Tokyo Imperial University and Kyoto Imperial University established separate faculties of law, letters and economics, no law and letters faculties were established at Hokkaido Imperial University, Osaka Imperial University and Nagoya Imperial University, which were all founded after Kyushu Imperial University and Tohoku Imperial University. This fact suggests that the presence of a Faculty of Law and Letters holds significance in research on the history of imperial universities. This research considers the Faculty of Law and Letters, focusing on the case study of Kyushu Imperial University.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育史・九州帝国大学・法文学部

### 1. 研究開始当初の背景

本研究開始時、直接編集・執筆に携わられた『東京大学百年史』の成果に基づき、『東京大学の歴史』（講談社学術文庫、2007年）をまとめられた寺崎昌男氏は、既に早くから、大学史研究は従来の制度史研究だけではなく、大学開放史、エリート形成史、プロフェッショナル養成史、留学生史、学歴社会研究等についての分析が重要である、との提言をされておられた（寺崎「大学史・高等教育史研究の課題と展望」『日本教育史研究』5、1986年）。本研究はこのような提言とこの間の大学史研究、各大学における『年史』編纂の進展、それからまたまた前掲寺崎書（講談社学術文庫）の「解説」をさせて頂いた折に感じた帝國大学（以下、帝大）のあり方の多様性に触発されて、後発帝大である九州帝大の「法文学部」を事例に、その設立理念と実態について考察しようとしたものである。

また、九州大学は2005年4月、従来の大学史料室を改組して、恒常的な史料の収集・整理・保存・公開と、大学史研究のために九州大学大学文書館を設置した。同館では大学史料室以来の大量の関係史料を受け継ぎ、同時に総務部、学務部（旧学生部）、各学部事務部等から多くの法人文書（旧行政文書）を受け入れていた。本研究はこのような九州大学における大学アーカイブ資料の蓄積や、長年同アーカイブに関係した人達との共同研究の実績（例えば、法文学部に直接関連する共同研究としては、①『九州帝国大学における留学生に関する基礎的研究』（2002年度～2003年度、科学研究費補助金、基盤研究(C)）、②『九州大学における学徒出陣・学徒動員』（2006年度～2007度、同））、等を契機・背景として開始したものである。

### 2. 研究の目的

1918（大正7年）年末、文部省は高等教育機関拡張計画の一環として、東北・九州両帝大に法文学部を置くこととし、各々1922年8月と1924年9月に法文学部が設置された。国内の7帝大のうち、法文学部が設置されたのは東北・九州両帝大のみであり、法学、文学、経済学の3学士を一つの学部として世に送りだした。東京・京都の2先発大学が法学、文学、経済の3学部を有し、一方、九州帝大、東北帝大より後に帝大となった北海道、大阪、名古屋の各帝大には文科系学部が全く置かれなかつたこと、しかし、植民地の朝鮮・台湾には各々京城帝大法文学部・台北帝大文政学部が設置されたこと、等を考えると、この法文（系）学部の存在自体が帝大史研究の中では一つの研究テーマになるものと思われる。

いわゆる大正デモクラシーの風潮の中で、憲法学者として著名な美濃部達吉によって創設された九州帝大法文学部は、「法と文を結ぶ新構想の学部」（『九州大学五十年史』通史。210頁）とも、「実質的には3学部を1学部に圧縮」（同208頁）した学部ともいわれたが、この法文学部の創立の理念とその後の展開はどのような形でなされたのであろうか。

本研究では、大正後期に出現し、戦後（1949年）の学制改革で法学、文学、経済学の3学部に分立した法文学部について、同時期に置かれた東北帝大法文学部はもちろん、上述した先発・後発帝大や植民地の帝大とも比較しながら、九州大学の事例を中心に検討したものである。

### 3. 研究の方法

上記のように、本研究では九州大学大学文書館のこれまでの研究業績及び所蔵史料を活用する方針で、「研究計画」を立てた。具体

的には、①大学事務文書（法人文書）の調査・研究、②文献・雑誌・新聞史料等の調査・研究、③「ヒアリング」（聞き取り）・「オーラル・ヒストリー」の実施（調査・研究）の三つであるが、実際には研究分担者を4グループに分けて共同研究を行った。

先ず各研究年度の初めに、調査・研究活動についての問題意識の確認・研究方法上の意見交換や相互調整のために、研究代表者の主催する全体研究会を開き、各グループ・各個人の研究方法等について協議した。特に初年度は綿密な打ち合わせを行い、その上で上記①～③の調査・研究に必要な準備作業を行った。

以下、簡単に4グループの担当課題を記しておけば、第1グループは、九州大学内における法文学部関係史料（事務文書）と、特に『九州帝国大学新聞』、『福岡日日新聞』の法文学部関係記事の調査を行うと同時に、九州帝大における法文学部自体の調査・研究。第2グループは、先発帝大や同時期にできた東北帝大法文学部、京城帝大法文学部、台北帝大文政学部等、他大学（学部）との比較検討。第3グループは、九州帝大法文学部では昭和初期にいわゆる「九大事件」（法文学部法科内訌事件、3・15事件等）が起こり、戦中期には右翼的な学内組織（教官・学生で組織）も結成されるが、このような「思想問題」や、法文学部教官によってなされる「講習会」等の「大学開放（拡張）運動」についての調査・研究。第4グループは、アジア諸国からの「留学生」、九州帝大法文学部における「アジア研究」についての調査・研究、である。

#### 4. 研究成果

具体的な成果は後述するが、ここでいくつかの成果について簡単に説明しておくと、先

ず、『九州帝国大学新聞』・『福岡日日新聞』の調査から生まれたのが各々の九州帝大法文学部関係記事「目録」である。次いで、折田悦郎「九州帝国大学法文学部の創設」が、史料を具体的に紹介しながら、九州帝大法文学部の創立とその後の見通しについて叙述した。藤岡健太郎「九州帝国大学法文学部のアジア研究と研究所構想」は、九州帝大法文学部教官のアジア研究の状況と戦時期のアジア関係研究所構想を論じ、陳昊「九州帝国大学の社会的活動について一法文学部をてがかりに一」は、講習会等、法文学部における「大学開放」の事例を明らかにした。

これらの研究は、いずれも従来各大学の『年史』以外、組織的に考察されることのなかつた後発帝大法文学部の比較研究となるとともに、「法文学部」の置かれなかつた先発帝大（東京、京都）や後発帝大（北海道、大阪、名古屋）の帝大史研究にも役立つものと思われる。また、昨今のいわゆる教養教育や文系基礎研究への『風当たり』は大変に強いものがあり、多くの大学で文系学部（学科）の再・改編が「現状の課題」となっている。法文学部研究は、これらの動向に直接的には役立つものではないが、大正デモクラシー期に「法科万能」批判の中で案出され、昭和初期の不況、マルクス主義の流行のもとで最初の卒業生を送り出した法文学部は、常に時代の影響を最も受けた学部であった（例えば「思想問題」、「就職難」、「学徒出陣」）。本研究では、一部ながら大学の現状を考える上での『基礎史料』を提供した。それから、現在いくつかの国立大学にはいわゆる大学アーカイブが置かれ、九州大学同様に多くの大学文書を収集している。本研究は、これらの大学アーカイブの「活動論」にも寄与するものだと思われる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### 〔雑誌論文〕(計 11 件)

- ①折田悦郎、九州帝国大学法文学部の創設、『後発帝国大学の設立理念と実態—九州帝国大学法文学部の場合—』科学研究費補助金報告書、查読無、2012、1~25 頁
- ②藤岡健太郎、九州帝国大学法文学部のアジア研究と研究所構想、『後発帝国大学の設立理念と実態—九州帝国大学法文学部の場合—』科学研究費補助金報告書、查読無、2012、27~44 頁
- ③陳昊、九州帝国大学の社会的活動について—法文学部を手がかりに—、『後発帝国大学の設立理念と実態—九州帝国大学法文学部の場合—』科学研究費補助金報告書、查読無、2012、45~57 頁
- ④梶嶋政司、九州帝国大学法文学部草創期の在外研究員に関する史料紹介、『後発帝国大学の設立理念と実態—九州帝国大学法文学部の場合—』科学研究費補助金報告書、查読無、2012、59~78 頁
- ⑤陳昊、九州帝国大学の社会的活動について—法文学部を手がかりに—、『教育基礎学研究』、查読無、第 9 号、2012、53~64 頁
- ⑥折田悦郎、九州帝国大学の歴史—創立前史と学部設置運動を中心として—、學士會会報、查読無、No.887、2011、14~19 頁
- ⑦折田悦郎編、キャンパス見学会：旧工学部本館、本部、旧法文学部、旧附属図書館について、蒼天悠々(はごろもプロジェクト)、查読無、2010、109~113 頁
- ⑧折田悦郎、九州帝国大学法文学部の成立、九州帝国大学の国史学：渡邊正氣オーラルヒストリー、查読無、2010.3、3~18 頁
- ⑨永島広紀、九州帝国大学法文学部入学者におけるその〈正系〉と〈傍系〉—朝鮮半島出

身者の動向を手掛かりに—、九州帝国大学の国史学：渡邊正氣オーラルヒストリー、查読無、2010.3、19~45 頁

- ⑩藤岡健太郎、解題：九州大学歴代総長・学長告辞集、九州大学大学史料叢書、查読無、第 17 輯、2009、1~8 頁

- ⑪井上美香子、「解説：米国人文科学顧問団記録」、九州大学大学史料叢書、查読無、18 輯、2010、1~11 頁

### 〔学会発表〕(計 9 件)

- ①折田悦郎、司会・コメンテーター、報告者：藤岡健太郎「九州帝国大学法文学部のアジア研究と研究所構想」、九州史学会大会日本史部会、2011.12.11、於：九州大学

- ②藤岡健太郎、報告者：「九州帝国大学法文学部のアジア研究と研究所構想」、九州史学会大会日本史部会、2011.12.11、於：九州大学

- ③永島広紀、報告者：「旧制官立大学における「傍系」入学—北海道・東北・九州各帝大への「外地」出身入学者の動向を中心にして—」、2011 年度九州史学研究会大会、2011.10.16、於：九州大学

- ④折田悦郎、コメンテーター、報告者：白永瑞(延世大学校国学研究院長・史学科教授)「植民地と脱植民地の狭間で—京城帝大と台北帝大の史学科の比較—」、九州大学韓国研究センター第 49 回定例研究会、2010.2.22、於：九州大学韓国研究センター

- ⑤新谷恭明、司会：シンポジウム「福岡における地域と大学の歴史」、全国地方教育史学会第 33 回大会、2010.5.23、於：九州大学

- ⑥藤岡健太郎、「九州帝国大学—九州大学と福岡」、全国地方教育史学会 第 33 回大会、2010.5.23、於：九州大学

- ⑦折田悦郎、コメンテーター：シンポジウム「福岡における地域と大学の歴史」、全国地

方教育史学会第 33 回大会、2010. 5. 23、於：  
九州大学

⑧折田悦郎、総括：「九州大学所蔵の史資料  
一過去・現在・未来一」(公開シンポジウム)、  
九州史学会(主宰)・九州大学附属図書館(後  
援)、2009. 12. 12、於：九州大学附属図書館

⑨折田悦郎、「九州帝国大学法文学部の成立  
特集：九州帝国大学法文学部の国史学」、九  
州史学会、2009. 12. 13、於：九州大学文系キ  
ャンパス

〔図書〕(計 1 件)

① 折田悦郎編、『後発帝国大学の設立理念と  
実態—九州帝国大学法文学部の場合—』  
科学研究費補助金報告書、九州大学大学  
文書館、2012、373 頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況(計△件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.arc.kyushu-u.ac.jp>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

折田 悅郎 (ORITA EISURO)

九州大学・大学院人文科学研究院／大学文  
書館・教授

研究者番号：10177305

### (2) 研究分担者

新谷 恭明 (SHINYA YASUAKI)

九州大学・大学院人間環境学研究院・教授  
研究者番号：10154402

藤岡 健太郎 (FUJIOKA KENTARO)

九州大学・大学文書館百年史編集室・准教  
授

研究者番号：00423575

梶嶋 政司 (KAJISHIMA MASASHI)

九州大学・附属図書館付設記録資料館九州  
文化史資料部門・助教

研究者番号：80403939

永島 広紀 (NAGASHIMA HIROKI)

佐賀大学・文化教育学部・准教授

研究者番号：50315181

陳 昊 (CHEN HAO)

九州大学・人間環境学研究院・学術協力研  
究員

研究者番号：50404108

### (3) 連携研究者

井上 美香子 (INE MIKAKO)

九州大学・大学文書館百年史編集室・助教  
研究者番号：30567326

### (4) 研究協力者

横山 尊 (YOKOYAMA TAKASHI)

九州大学・大学文書館百年史編集室・テク  
ニカルスタッフ

市原 猛志 (ICHIHARA TAKESHI)

九州大学・大学文書館百年史編集室・テク  
ニカルスタッフ

田中 千晴 (TANAKA CHIKARU)

九州大学・人間環境学府教育システム専

攻・大学院生